

処方番号：33

処方名：芎帰調血飲（きゅうきちようけついん）

**処方構成：**

当帰 2、地黄 2、川芎 2、白朮 2、茯苓 2、陳皮 2、烏薬 2、大棗 1.5、香附子 2、甘草 1、牡丹皮 2、益母草 1.5、乾姜 1-1.5、生姜 0.5-1.5（生姜はなくても可）

**用法・用量：**

湯

**しばり：**

体力虚弱なもの次の諸症。ただし産後の場合は体力に関わらず使用できる。

**効能・効果：**

月経不順、産後の神経症・体力低下

原典：万病回春

出典：

**解説：**

本方は貧血を補い、産後の悪露瘀血を去り脾胃消化器系の活力をつけ、血の道症特有の神経症状に用いるもので、四君子湯と四物湯の合方である八珍湯や十全大補湯より実している。

### 33. 芎歸調血飲

参考文献名	当 歸	川 芎	熟 地 黃	朮	白 朮	茯 苓	陳 皮	烏 藥	香 附 子	牡 丹 皮	益 母 草	大 棗	生 姜	乾 生 姜	乾 姜	甘 草
処方分量集	2	2	2	2	-	2	2	2	2	2	1	1.5	-	-	1	1
診療の実際 注1	2	2	2	2	-	2	2	2	2	2	1.5	1.5	1.5	-	1.5	1
診療医典	2	2	2	2	-	2	2	2	2	2	1.5	1.5	-	-	1.5	1
症候別治療	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
処方解説 注2	2	2	2	-	2	2	2	2	2	2	1.5	1.5	-	1	-	1
後世要方解説 注3	2.5	2.5	2.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1	1	0.5	-	1	1
漢方百話 注4	2.5	2.5	2.5	2.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1	1	-	-	1	1
応用の実際	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明解処方	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

〔注1〕 産後の元気回復，乳汁欠乏症，産後脚気，食欲増進。

〔注2〕 産後調理，産後神経症，血の道症，乳汁不足，血脚気，月経不順。

〔注3〕 産後調理，産褥熱の軽症，産後頭痛，耳鳴り，動悸，めまい，上衝等を訴えるもの。血の道，乳汁不足，血脚気，月経不順。

〔注4〕 産後の悪露不足，乳汁不足，産後の神経症，血の道症，血脚気の子防，手足のしびれ，ヒステリー，脳貧血によるめまい，産後の腰痛，頭痛，食思不振，月経不順。

処方番号：33A

処方名：芎帰調血飲第一加減（きゅうきちようけついんだいいちかげん）

**処方構成：**

当帰 2、川芎 2、地黄 2、白朮 2、茯苓 2、陳皮 2、烏薬 2、香附子 2、牡丹皮 2、益母草 1.5、大棗 1.5、甘草 1、乾姜 1-1.5、生姜 0.5-1.5（生姜はなくても可）、芍薬 1.5、桃仁 1.5、紅花 1.5、枳実 1.5、桂皮 1.5、牛膝 1.5、木香 1.5、延胡索 1.5

**用法・用量：**

湯

**しぼり：**

体力中等度以下から虚弱なものの次の諸症。ただし産後の場合は体力に関わらず使用できる。

**効能・効果：**

血の道症、月経不順、産後の体力低下

原典：万病回春

出典：一貫堂医学大綱

**解説：**

産後の悪露の調理に使用。本方は芎帰調血飲（33）よりも瘀血の傾向が強い場合に用いる。

処方番号：34

処方名：響声破笛丸（きょうせい はてきがん）

**処方構成：**

連翹 2.5、桔梗 2.5、甘草 2.5、大黃 1、縮砂 1、川芎 1、訶子 1、阿仙薬 2、薄荷葉 4  
（大黃のない場合も可）

**用法・用量：**

（1）散：1回 2-3g 1日数回

（2）湯

**しぼり：**

体力に関わらず広く応用できる

**効能・効果：**

しわがれ声、咽喉不快

原典：万病回春

出典：

**解説：**

声を出し過ぎて、かすれ声になったり、ほとんど声にならなくなったりしたときに、咽喉を常にしめらせるようにして服用する。原方では、漢方薬としても珍らしく、丸剤としたものを口中に含み、徐々にとかしてのみくだすことになっている。卵白を用いて丸剤とする記載があるが、その必要はない。

### 34.響声破笛丸

参考文献名		連翹	桔梗	甘草	大黃	縮砂	川芎	訶子	阿仙葉	薄荷葉
万病回春 卷下咽喉	注1	2.5両	2.5両	2.5両	1両	1両 <sup>*1</sup>	1.5両	1両	2両 <sup>*2</sup>	4両
診療医典	注2	2.5	2.5	2.5	1	1	1	1	2	4
症候別治療	注3	2.5	2.5	2.5		1	1	1	2	4
処方解説	注4	2.5	2.5	2.5	1	1	1	1	2	4

\*1 砂仁 \*2 百葉

〔注1〕 右為細末，雞子清為丸，如彈子大，每服一丸，臨臥時嚙化，徐徐嚙下，声音不出者，腎虛也。

〔注2〕 唱歌，演説などの発声過度のため嗄声を起こしたものに用いて効果がある。

〔注3〕 この方は万病回春の方で“謳歌によって音を失するを治す”とあり，浪花節かたり，声楽家，政治家の演説などで，声のかれたものによくきくばかりでなく，平素のどが弱くて，すぐ声のかれる傾向のあるものが用いてもきく。口内で噛み砕いて，少しずつのみ込むようにした方がよい。この方には大黃が入っているが，私は大黃を除いて，丸としたものを作って用いている。まことに調法なもので，感冒でのどの気持のわるい時にのんでもよい。

〔注4〕 歌をうたい，演説が続き，発声過度のため声がつぶれ，嗄声を起こしたときなどに用いる。嗄声の特効薬として応用される。糊丸とし卵白でのんでもよい。

処方番号：35

処方名：杏蘇散（きょうそさん）

**処方構成：**

蘇葉 3、五味子 2、大腹皮 2、烏梅 2、杏仁 2、陳皮 1、桔梗 1、麻黄 1、桑白皮 1、阿膠 1、甘草 1、紫苑 1

**用法・用量：**

湯（原則として）

**しぼり：**

体力中等度以下から虚弱で気分がすぐれず、汗がなく、ときに顔がむくむものの次の諸症

**効能・効果：**

せき、たん、気管支炎

原典：直指方 仁齋直指

出典：

**解説：**

『仁齋直指方』の喘息門に記載されている処方である。「上気喘嗽浮腫を治す。」と主治が書かれている。虚実の記載はないが、処方内容から中間証から虚証の喘息、咳嗽に應用する処方である。神経質の傾向があり、のぼせも認める場合が多い。ストレスで呼吸困難が増強する場合にも効果が期待出来る。処方名から蘇葉と杏仁が主薬であろうが蘇葉は気の巡りを良くし、麻黄と組み合わせることにより表の寒邪を去る力を増し、発汗、鎮咳、去痰作用が増強される。また杏仁は麻黄と組み合わせることにより鎮咳、去痰作用が増強される。気管支喘息の呼吸困難の治療に強力な作用を発揮する麻杏甘石湯の石膏を除いて組み入れており、呼吸困難の改善にも効果が期待出来る。本処方適応証は実熱証ではないので麻杏甘石湯の意味はあるが石膏を去っている。

### 35.杏蘇散

参考文献名		紫蘇葉	五味子	大腹皮	烏梅	杏仁	陳皮	桔梗	麻黃	桑白皮	阿膠	甘草	紫苑
直指方	注1	2兩	1兩半	1兩半	1兩半	1兩半	3分	3分	3分	3分	3分	1兩	1兩
診療医典		3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
処方分量集		3	2	2	2	2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1	1.5
図説・漢方処方の八網分類		3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1

注1 杏蘇飲：治上気喘嗽浮腫。右咬咀，每参錢姜五片煎服。

処方番号：36

処方名：玉屏風散（ぎょくへいふうさん）

**処方構成：**

防風 2-4、黄耆 4-6、白朮 2-4

**用法・用量：**

湯

**しぼり：**

体力虚弱で、疲労しやすいものの次の諸症

**効能・効果：**

ねあせ、多汗症、アレルギー性鼻炎、感冒

**原典：丹溪心法**

**出典：**

**解説：**

金元時代の朱丹溪（1281—1358）の処方で『世医得効方』や『丹溪心法』を原典としている。日本への伝来も古く、『医療衆方規矩大成の薬方国字類聚』『饗庭家口訣』『療治経験筆記』に記載されている。

主薬は黄耆で、黄耆について長沢道寿（？～1637）は『増補能毒』で「大略人参の（効）能に似たり、皮膚を厚くするところに心を付けて使うべし。自汗盗汗に必ず用う。皮膚の熱氣を去る。私は言う、皮膚の熱氣にも虚したる人に用い、強き人には用いず。」と述べている。また防風は「一身の風邪を去る」、白朮は「湿氣を除き、氣を増し、痰を去り、小便を通ず」と記していることから、黄耆の自汗・盗汗の働きを補佐していると思われる。

本方は、皮膚が衰えたために、汗腺の調節が低下して体液が汗として漏れてしまったり、皮膚が敏感になって外界の刺激に反応しやすくなったり、皮膚の防御作用が低下して、かぜなどにかかりやすくなった状態に使われる。



### 36.玉屏風散

参考文献名	防風	黄耆	白朮	生姜	用法・用量
中医処方解説 注1	3	6	4		*1
漢薬の臨床応用	2	6	2		*2
脾胃学説の臨床	-	-	-		
実用漢方処方集 注3	3	6	4		*3
黙堂柴田良治処方集 注4	4	4	4	0.5	

\*1 水煎服。散剤にして1日2～3回ずつ服用してもよい。文献量の1/3を記載

\*2 水煎服。文献量の1/3を記載

\*3 水煎服。散剤にして1日2～3回ずつ服用してもよい。文献量の1/3を記載

#### 注1

・少し動くと汗がでる(自汗)・疲れやすい・息ぎれ・軽度の寒けなどの症候で、感冒にかかりやすく治りにくいことが多い。

・舌質は淡白・舌苔は白薄・脈は軟。

・多汗症・アレルギー性鼻炎・慢性鼻炎・感冒にかかりやすいもの・その他の慢性疾患で、衛表不固を呈するもの。

#### 注2

・衛気を固補することにより、表虚外感、表虚自汗を治療し、虚人の外感罹患を予防する好適の方剤である。

#### 注3

・益気固表、止汗

・多汗症、アレルギー性鼻炎、慢性鼻炎、感冒にかかりやすいもの、その他の慢性疾患で、衛表不固を呈するもの。

#### 注4

・汗が出て悪寒、悪風のない感冒、発熱(表虚)

処方番号：37

処方名：銀翹散（ぎんぎょうさん）

**処方構成：**

連翹 3-4、金銀花 4、桔梗 2、薄荷 1-2、淡竹葉 3、甘草 1、荊芥 2-3、淡豆豉 3、牛蒡子 3、  
芦根（葶茎） 5-6

**用法・用量：**

湯

**しぼり：**

体力に関わらず広く用いられる

**効能・効果：**

風邪によるのどの痛み、咳、口（のど）の渇き、頭痛

原典：温病条弁

出典：

**解説：**

『温病条弁（呉鞠通）』を原典とする「温病」の代表的な処方である。『傷寒論』に「太陽病で発熱して渴し、悪寒せざる者、温病となす」と、寒邪による「傷寒」とは別に、熱邪による「温病」があることが記されている。それを根拠にして、明代に発生し清代に発達したのが「温病」の体系である。傷寒では発熱の前に寒気があり、桂皮など辛温解表薬が使われるのに対して、温病に使う、銀翹散は辛涼解表薬で構成されている。本方では寒気を感じないか、感じたとしてもわずかである。症状としては口渇や咽の痛み、発熱、頭痛、目の充血など、炎症（熱）が中心となる。傷寒が冷風や冷飲を嫌うのに対して、本方適応症では、冷風や冷飲を心地よく感ずる。また舌尖が赤いという特徴がある。

### 37. 銀翹散

参考文献名	連翹	金銀花	桔梗	薄荷	竹葉	淡竹葉	生甘草	甘草	荊芥	淡豆豉	牛蒡子	芦根	羚羊角	用法・用量
中医処方解説 注1	4	4	2	2		3	1		2	3	3	5		*1
漢薬の臨床応用 注2	3	4	2	1 (後下)		3		1	3	3	3	6		*2
実用漢方処方集 注3	4	4	2	2		3	1		2	3	3	5		*3
黙堂柴田良治処方集 注4	4	4	2	1	3			1	3	3	3	5		

\*1 水煎服(数回沸とうさせるだけでよい)。文献量の1/3を記載

\*2 水煎服。文献量の1/3を記載

\*3 水煎服(数回沸とうさせるだけでよい)。文献量の1/3を記載

#### 注1

・熱感あるいはかすかな悪寒・発熱・頭痛・咽痛・無汗あるいは汗ばむ・軽度の口渴などで、目の充血・咳嗽などをともなうことがある。

・舌質は尖辺が紅・舌苔は白～微黄で薄・脈は浮数。

・感冒・インフルエンザ・咽喉炎・扁桃炎・流行性耳下腺炎・急性気管支炎・肺炎・日本脳炎・流行性脳脊髄膜炎・急性腎炎の初期・麻疹・化膿症の初期などで、表熱を呈するもの。

#### 注2

・外感による咳嗽に常用する。

・感冒や熱性疾患の初期で症状が軽いとき(風熱表証)に用いる。

#### 注3

・辛涼解表、清熱解毒

・感冒、インフルエンザ、咽喉炎、扁桃炎、流行性耳下腺炎、急性気管支炎、肺炎、日本脳炎、流行性脳脊髄膜炎、急性腎炎の初期、麻疹、化膿症の初期などで、表熱を呈するもの。

#### 注4

・感冒、咽頭炎、扁桃炎、発熱、悪寒のない感冒の発熱、解表清熱、宜肺解毒、清利咽喉

処方番号：38            処方名：苦参湯（くじんとう）

処方構成：

苦参 6-10

用法・用量：

水 50-60ml で煮て 250-30ml とし外用す。

しばり：

（しばりなし）

効能・効果：

ただれ、あせも、かゆみ

原典：金匱要略 狐惑病

出典：

解説：

『金匱要略』の「百合狐惑陰陽病毒」を原典とする外用薬である。

原典は「陰部が蝕まれる（ただれたり潰瘍になること）と咽が渴く。これには苦参湯で洗えばよい」とある。

苦参はアルカロイド・フラボノイド・サポニンなどを含み、これらは、いくつかの薬理作用を有している。このうち、Kurarinone は抗真菌や殺菌作用、l-maackianin は抗皮膚糸状菌作用、matrine は抗真菌や駆虫作用などが報告されている。

### 38.苦参湯

参考文献名		苦 参
処方解説	注1	6~10
診療の実際	注2	6
民間薬百科	注3	6
診療医典		6
応用の実際	注4	6
治療の実際		6

注1 陰部のただれ，潰瘍，湿疹，水虫，たむし，皮膚瘙痒症。

注2 瘙痒の堪え難いもの。

注3 かゆみのある皮膚病，または炎症性のはれものを目標とする。

水虫(汗疱状白癬)，あせも(汗疹)，リンパ腺炎，床ずれ(褥瘡)などに応用される。

注4 あせものかゆみどめおよび治療，湿疹その他の皮膚病のかゆみどめなど。

処方番号：39

処方名：驅風解毒散（湯）（くふうげどくさん（とう））

処方構成：

防風 3、牛蒡子 3、連翹 5、荊芥 1.5、羌活 1.5、甘草 1.5、桔梗 3、石膏 5-10

用法・用量：

湯（本処方では冷やしてうがいしながら少しずつゆっくり飲む）

しぼり：

体力に関わらず、のどがはれて痛む次の諸症

効能・効果：

扁桃炎、扁桃周囲炎

原典：万病回春・咽喉門

出典：和田泰庵方函

解説：

『万病回春』には桔梗・石膏が含まれていないが、出典とした『和田泰庵方函』には桔梗・石膏の含まれたものが記載されているので、この矛盾点を解決せねばならない。

### 39. 驅風解毒散(湯)

参考文献名		防風	牛蒡子	連翹	荊芥	羌活	甘草	桔梗	石膏
診療医典	注1	3	3	5	1.5	1.5	1.5	3	5
処方解説	注2	3	3	5	1.5	1.5	1.5	3	5
治療の実際	注3	3	3	5	1.5	1.5	1.5	3	10
応用の実際	注4	3	3	5	1.5	1.5	1.5	3	10
診療の実際	注5	3	3	5	1.5	1.5	1.5	3	5
処方集	注6	5	3	5	1.5	1.5	1.5	3	6
民間薬百科	注7	3	3	5	1.5	1.5		3	5
処方分量集		3	3	5	1.5	1.5	1.5		

〔注1〕 ジフテリア、猩紅熱(扁桃がはれ、口内が荒れ、頸腺の腫れたものにより。)急性扁桃炎(アンギナ)

〔注2〕 「疔腮(扁桃炎・アンギナ・耳下腺炎)腫れ痛むを治す。」咽喉腫痛に半ばは飲用し、半ばは含嗽用として用いるとよい。アンギナ(カタル性・腺窩性・濾胞性)・扁桃周囲炎・耳下腺炎

〔注3〕 扁桃炎または扁桃周囲炎のこじれたもの。

〔注4〕 咽喉の腫痛に用いる。咽喉の腫痛は、たいてい葛根湯加桔梗石膏でよくなるが、もしこれで治らず久しく硬腫するものに本文を用いる。

また咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎、口内炎などにも応用される。

〔注5〕 アンギナ

〔注6〕 扁桃腺炎で咽喉腫塞痛のもの

〔注7〕 こじれた扁桃炎、扁桃周囲炎、急性のものでも、こじれてなおりにくいものには、これを用いる。

また扁桃炎、扁桃周囲炎、咽頭炎などに用いられる。

処方番号：40

処方名：九味檳榔湯（くみびんろうとう）

**処方構成：**

檳榔子 4、厚朴 3、桂枝 3、橘皮 3、蘇葉 1-2、甘草 1、大黃 1、木香 1、

生姜 1（ヒネシヨウガを使用する場合 3）（大黃を去り、呉茱萸 1、茯苓 3 を加えても可）

**用法・用量：**

湯

**しばり：**

体力中等度あるいはそれ以上で、全身倦怠感があり、ことに脚の倦怠感が著しいものの次の諸症

**効能・効果：**

疲労倦怠感、更年期障害、動悸、息切れ、浮腫、神経症、胃腸炎、リウマチ

原典：本朝経験方

出典：浅田家方、勿誤薬室方函

**解説：**

『浅田方函口訣』に本方の主治として「脚気腫満、短氣、及び心腹痞積、氣血凝滯する者を治す」との記載がある。この記載のように本方は脚気及び脚気様症状を呈す種々の疾患の治療に応用され、効果の高い処方である。脚気の原因がビタミンB1不足による栄養失調であることが解明されて以来重症の脚気は吾が国で見られなくなっているが、食生活の不摂生、ストレス、その他色々の慢性疾患に所謂脚気様症状を認めることは多い。どのような疾患であれ、脚気様症状を認めるときは本方を適用して効果を認めるものである。

自覚症状としては、疲労感、倦怠感、胸部の動悸、息切れ、筋肉の凝り、特に下肢の筋肉の凝りとだるさ、こむら返り、便秘傾向があり、顔や手足がむくむなど所謂脚気様症状を目標にする。

他覚症候としては心の右方拡大、第二肺動脈音の亢進、脚気特有の脈（促脈）、最低血圧の低下、腓腹筋の握痛、皮膚知覚低下、腱反射の異常（初期に亢進後に低下または消失）肩背の凝り、朝目覚めが悪いなどの症状を認める。

脚気様症状を認めるときのファーストチョイスの処方である。



#### 40.九味檳榔湯

参考文献名		檳榔子	厚朴	桂枝	枳皮	蘇葉	甘草	大黃	木香	乾生薑	生薑	吳茱萸	茯苓	用法・用量
漢方診療医典	注1	4	3	3	3	1.5	1	1	1	1				
漢方処方応用の実際	注2	4	3	3	3	1.5	1	1	1	1				
臨床応用漢方処方解説	注3	4	3	3	3	1.5	1	0.5-1	1	1				
金匱要略入門	注4	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
漢方医学		4	3	3	3	1.5	1	1	1		3	(1)	(3)	
新版漢方医学		4	3	3	3	1.5	1	1	1		3	(1)	(3)	
症候による漢方治療の実際		4	3	3	3	1.5	1	1	1		3	(1)	(3)	
漢方後世要方解説	注5	4	3	3	3	1.5	1	0.5	1		1.5			
経験漢方処方分量集		4	3	3	3	1.5	1	1	1	1	又 は3			
改訂新版漢方処方分量集	注6	4	3	3	3	2		1	1	1				
漢方入門講座1	注7	4	3	3	3	1	1	1	1		3			
漢方あれこれ	注8	4	3	3	3	1.5	1	1	1					
現代漢方入門	注9	4	3	3	3	2	1	1	1		1			
1000万人の漢方診断と治療の実際	注10	4	3	3	3	2	1	1	1		1			
実用漢方療法		4	3	3	3	1.5	1	1	1		2			

##### 注1

- ・本方は脚気様症状を備えた、水毒保持者に対し、またその特有の体質者に現れた種々の疾患に応用される。
- ・本方は主として脚気に用いられ、また神経症、心臓神経症、高血圧症、バゼドウ病、胃腸炎、多発性神経炎、ヘルペス、リウマチ、疲労病、更年期障害などにも応用される。

##### 注2

- ・脚気で、下肢が腫れ、息切れするものに用いる。
- ・細野史郎氏は、この方に呉茱萸、茯苓を加えて薬効を増強できるといっている。この加呉茱萸茯苓は浅田宗伯の経験である。

##### 注3

- ・脚気様症状を備えた、水毒保持者に対して、最もしばしば用いる。またその特有の体質者に現れた種々の疾患に応用される。
- ・本方は主として脚気(浮腫・動悸・呼吸困難)、神経症とくに用いられるものであるが、また心臓神経症、高血圧症、バゼドウ病、心筋炎、胃腸炎、多発性神経炎、癩癩、ヘルペス、リウマチ、肺結核、疲労病、貧血症、更年期障害などにも応用される。

##### 注4

- ・脚気にて腫満し、短気、及び心腹痞積、気血凝滞するものを治す。

##### 注5

- ・脚気腫満、短気、及び心腹痞積気血凝滞するものを治す。

##### 注6

- ・脚気浮腫、息切れ及び心腹痞積、ふくらはぎの緊張。

##### 注7

- ・脚気：浮腫、息切れするものの実証を治す。

##### 注8

- ・ツユどきになると、急に足がはれてしびれたり、朝起きたとき、下にしていた手がしびれて指が曲がりにくかったり、マクラをあてていた部分の神経がにぶくなったりすることがある。こういう人は、ふだん顔がはれぼったく、足がだるく、坂道や階段をのぼるとすぐどきがして疲れやすいほか、朝も起きにくいといった症状を訴えるタイプに多いものであるが、漢方ではこれらの症状を脚気の種類とみて、本方を処方する。

注9

・脚気、心臓神経症、多発性神経炎、リウマチ、更年期障害。

注10

・脚気、心臓神経症、多発性神経炎、リウマチ、更年期障害。

処方番号：41

処方名：荊芥連翹湯（けいがいれんぎょうとう）

**処方構成：**

当帰 1.5、芍薬 1.5、川芎 1.5、地黄 1.5、黄連 1.5、黄芩 1.5、黄柏 1.5、山梔子 1.5、連翹 1.5、  
荊芥 1.5、防風 1.5、薄荷葉 1.5、枳殻（実） 1.5、甘草 1-1.5、白芷 1.5-2.5、桔梗 1.5-2.5、柴胡 1.5-2.5  
（地黄、黄連、黄柏、薄荷葉のない場合も可）

**用法・用量：**

湯

**しばり：**

体力中等度以上で皮膚の色が浅黒く、ときに手足の裏に脂汗をかきやすく腹壁が緊張しているものの次の諸症

**効能・効果：**

蓄膿症、慢性鼻炎、慢性扁桃炎、にきび

**原典：一貫堂経験方**

**出典：**

**解説：**

本方は解毒症体質（一種の肝臓機能低格症）又は腺病性体質を改善する薬方である。

本来は蓄膿症・中耳炎等に用いられるもので、『万病回春』の耳病門・鼻病門の荊芥連翹湯の加減法である。この特有の体質者に発した諸病に応用される。

#### 41. 荊芥連翹湯

参考文献名		当 帰	芍 薬	川 芎	地 黄	黄 連	黄 芩	黄 柏	山 梔 子	連 翹	荊 芥	防 風	薄 荷 葉	枳 殼	甘 草	白 芷	桔 梗	柴 胡
診療医典	注1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2	2	2
処方解説	注2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5
治療の実際		1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5 (枳実)	1	1.5	1.5	1.5	1.5
応用の実際	注3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1	1.5	1.5	1.5	1.5
要方解説	注4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2	2	2
診療の実際	注5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2	2	2
処方集	注6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2

【注1】 皮膚の色が暗褐色を示し、腹直筋が全体に緊張し、肝経と胃経に相当して腹筋の拘攣を認めることが多い。

青年期腺病体質の改善、急性慢性中耳炎、急性慢性上顎洞化膿症、肥厚性鼻炎などに用いられ、また扁桃炎、衄血、面疱、肺結核、神経衰弱、禿髮症などに応用される。

【注2】 皮膚の色は概してドス黒く、暗褐色を呈することが多い。脈は緊で、腹は直腹筋が全体に緊張して、肝経と胃経に相当して、腹筋の拘攣を認めることが多い。

本方は主として青年期腺病体質の改善、急性慢性中耳炎、急性慢性上顎洞化膿症、肥厚性鼻炎等に用いられ、また扁桃炎、衄血・肺浸潤、面疱、肺結核(増殖型のもの)、神経衰弱、禿髮症等に用いられる。

【注3】 耳が腫れ痛むとき用いる。初期のうちで、熱があるときは葛根湯を用いるが、それでも効果がないときや、やや長びいたときにはこの方がよい。

中耳炎、外耳道炎などにも応用される。

【注4】 この方の主治は原方の、「両耳腫痛するものを治す。腎経風熱あるなり。」(万病回春・耳病門)の如くであるが、耳病に限らず、解毒症体質の改善薬として広く応用される。清熱、和血、解毒作用あって、青年期に於ける腺病体質者に発する諸症に用いてよい。一般に皮膚浅黒く、光沢を帯び手足の裏に油汗多く、主として上焦に発せる鼻炎、扁桃腺炎、中耳炎、蓄膿症等に用いられる。脈腹共に緊張あるものである。

青年期腺病体質改善薬、急性中耳炎(加蟬退、蔓荊子各1.2g)、急慢性上顎洞化膿症、肥厚性鼻炎、扁桃腺炎、鼻衄、肺浸潤初期、面疱にも応用される。

【注5】 急性穿孔性中耳炎、急性乳様突起炎(加蟬退・蔓荊子)、急性鼻炎、慢性鼻カタル、上顎洞化膿症(加辛夷)、衄血(加升麻、牡丹皮)、アデノイド、扁桃肥大。

【注6】 体質的に浅黒く手足の裏に油汗多く脈腹共に緊張あるものを目標とする。

急性中耳炎、蓄膿症、肥厚性鼻炎、扁桃腺炎、鼻血、にきび、肺結核初期、青年期腺病体質改善に応用される。